

令和 3 年度

事業所名 : ホームとよまね

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000013		
法人名	株式会社 メイト		
事業所名	ホームとよまね		
所在地	〒028-1302 岩手県下閉伊郡山田町豊間根第2地割64番地11		
自己評価作成日	令和3年11月10日	評価結果市町村受理日	令和4年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の中にある『高齢者が「生きていること」を実感できる』ということをや目標としている。それぞれの生活リズムを尊重し入居者が自ら選択し、暮らしていくその人らしい生活を職員が支援している。保育園や、地域のカラオケ愛好会の定期的な訪問がある他、小、中学校の福祉体験学習。また、3か月に1度歌と踊りの公演があり、ホーム入居者だけでなく近隣の方々にも足を運んでもらい地域の楽しみ場ともなっている(現在、コロナ感染予防の為自粛している)2年前からは、春先に花の種を植えてきた苗や使い古したタオルを縫い合わせた雑巾を保育園などに寄付する活動を継続している。交流するだけでなく、入居者にも地域の一員としての役割があり、「生きていること」を実感できる活動として定着することを目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中で高齢者が「安心と尊厳のある」生活を実現させる施設が無くてはならないという創設者の思いが理念に表れており、それを職員をはじめとした関係者、医療、行政などの機関が協力、連携して実現させている。コロナ禍で様々な制約のある中、全員でできる方法や手段を考え、小学生、幼稚園児との交流、ドライブなど細心の注意を払いながら取り組んでいる。事業所が考える強み、弱みともに職員に関わることであり、事業所として地域福祉向上への進化を続ける姿勢は評価に値する。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、施設内のホールの目につきやすい所に理念を掲示している。職員会議の際に全職員で理念の唱和をし共有している。また、理念に関する研修会を通じて実践の意識を高めている。	事業所立ち上げの際に創設者の思いを込めた理念を事業所内に掲示し、職員も唱和するなど理念の実践に努めている。例えば、絵手紙をもらった利用者に寄り添い、絵を描く、名前を書くなどできることを支援するなど、日々のケアが積み重ねられている。	理念に盛り込まれている言葉の意味を再確認して、全職員が理念を共有しながらケアに当たっていくことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	R2・2月～コロナ感染予防の為、ボランティア・保育園・小学校・中学校の交流は自粛している。ホーム内のイベントは行っている。	令和3年11月、地元小学校からの求めに応じて、教師のワクチン接種済みの確認と子供達に感染予防対策を講じていただき、入居者と交流を行っている。また、地元の幼稚園からも交流の求めがあり、入居者と職員が幼稚園園庭に出掛け交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の在宅介護をしている方向けの介護教室の見学先となり、認知症の方の生活を知る機会や認知症の悩みを相談できる場として活用されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な機関の代表者が推進委員として参加しており情報交換できている。会議を通じて台風などの非常災害時の避難の状況を共有し災害発生時に活かされている。	コロナ禍で書面開催であったが、今年の10月から集合形式で開催している。委員は、他社グループホームの管理者や隣接の障害者施設の施設長、地区民生委員など多彩な顔ぶれとなっている。活動状況の報告等に率直な意見交換が行われ、貴重な助言を得る機会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議などで情報交換を行いながら、協力関係の構築に努めている。	運営推進会議や地域ケア会議で情報交換しているほか、制度や利用者対応で不明なことがあれば、担当者に相談し快く関わっていただいている。入居者を選定する際には、役場から入居に関する情報を得るなど、町とは日頃から積極的に関わっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為について研修会を行い、理解を深めている。身体拘束排除宣言をしており、拘束のないケア方法に努めている。	身体拘束権利擁護委員会は、2号館も含めた職員で構成し3か月に1回開催している。ヒヤリハットやスピーチロックなど、事例をもとに話し合っている。介護の場面での行動障害を有する利用者については、職員で話し合い専門医を受診し、家族説明を行い支援している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ホームとよまね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	研修会を通じ、虐待防止の理解を深めている。また、権利擁護委員会にて虐待につながる不適切なケアが行われていないかチェックしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止の研修の中で経済的虐待について学び、権利を擁護するための制度があることを理解している。必要に応じ関係機関に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は専門用語を避け説明している。ホームで予想される事故などのリスクや退所の要件などを十分説明し不安の軽減に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に外部の苦情・相談の窓口の説明をしている。また、運営推進会議へ出席していただきホームの現状を把握したり、意見を言える場を設け運営に反映している。	テレビを見る位置や座る位置を変えたいなど、入居者本人が、管理者や職員に意見や要望を伝えており、支援調整に反映している。家族からも意見・不満・要望が表される。「笑顔で対応して欲しい」と要望があり、職員会議で話し合い改善に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日々の申し送りで疑問点や提案を聞き出す機会を設け、運営に反映している。	毎月25日に職員会議を開催して職員から要望等を聴く機会としている。社長や管理者は、現場職員から情報を得、一緒に話し合いながら支援の仕方など調整している。各種研修や資格取得に向け、勤務日を配慮し研修経費を助成しており、介護職員の殆どは介護福祉士を取得している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格や能力に応じた給与体系を整備している。また、会社独自の資格取得支援制度を設け、職員が向上心を持って働ける職場環境・条件の整備に努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ホームとよまね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議で様々なテーマで研修を実施している他、外部研修の情報提供をし、均等に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町内のグループホームとはお互いの運営推進会議に参加し情報交換を行っている。グループホーム協会の定例会、研修会にも参加し、情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査にて、利用前の生活環境と本人のしたい生活を聞き取り、不安な気持ちを理解するとともに職員が信頼してもらえる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査にて本人と家族の関係性や不安な気持ちを理解し、要望を確認して信頼してもらえる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査にて生活歴や趣味・嗜好・生活習慣などから必要と考えるサービスについて見極め、提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し・たたみや掃除、シーツ交換等できる日課について職員が業務として行うのではなく、利用者と一緒に生活支援として、暮らしを共にする者同士の関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には職員から生活の様子を伝えている。また、家族からもその都度本人の嗜好などを聞き取り、支援に活かしている。健康状態と生活状況について毎月文書で送付し、情報共有している。		

令和 3 年度

事業所名 : ホームとよまね

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の自宅やなじみの場所等行きたい所への外出支援や地域の行事への参加を心がけている。	入居時や普段の生活で、地域での繋がりを聞き取っている。知り合いの理髪店には、コロナ禍の状況下で来所し整髪していただいている。外部との交流が減少しているが、地域との接点を持ちながら馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性やその時の気持ちを把握し適切な距離感が保てるよう配慮している。一緒にできる季節の飾り作りやおやつ作りなどを共同で行うことで関わり合えるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院時や退所の可能性がある場合には、他施設への紹介や情報提供に努めるとともに、退所後も家族がいつでも相談できる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや暮らし方の希望を聞き取り、意向の把握に努めている。困難な場合でも、生活歴から本人の思いを代弁し本人本位に検討するよう努めている。	入浴や夜勤などの時に、ゆっくりと意向や思いを聞いている。本人がやりたいことや出来ることが分かり、雑巾縫いなどを行い、行動が意欲的になった方もいる。把握が困難な場合には、家族に聞いたり、興味を示すものを見つけたりしている。本をめくる仕草から、「好きな花の本」を読んでいる方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの聞き取りなどを通じ生活歴や人間関係の把握に努めている。サービス利用歴にある場合には担当の介護支援専門員やサービス事業所から情報提供してもらうこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を通じて一日の過ごし方を把握している。言動や変わったことを記録に残すことで心身状態や有する力等の現状の把握に努めている。		

令和 3 年度

事業所名 : ホームとよまね

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議にて介護計画について職員全員で話し合いを行っている。家族の訪問時などに意向の聞き取りを行い計画作成に反映している。目標期間を設定し現状に即した内容に都度変更している。	介護計画は、短期目標は6ヵ月、長期目標は1年を原則とし、職員会議でモニタリングと見直しを行っている。職員会議では、入居者状態を整理した資料を用いて話し合い、介護計画に反映している。利用者の趣味や好きなこと、家族からの意向も取り入れ、現状に即したものとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録や業務日誌にて情報共有している。記録の書き方の研修を行い、ケアプランに連動した記録を意識し、サービスの実践・結果を記録するように努め計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内のサービスに限らず、外出が必要なニーズについては計画に位置付け、サービス提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ、地域のボランティアなどの資源の把握に努めている。近隣の床屋さんの出張カットサービスを活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医や希望する医療機関への受診が継続できるよう同行サービスを実施している。	従来のかかりつけ医を継続利用しており、県立山田病院や県立宮古病院、近隣の開業医を受診している。以前は、家族の付き添いにて通院することがあったが、コロナ禍の今は職員での通院介助となっている。変化があるときにはその都度家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を配置して。協力医療機関の看護師、かかりつけ医療機関の看護師等に相談し、助言を求めている。		

令和 3 年度

事業所名 : ホームとよまね

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はホームでの生活を医療機関に情報提供している。退院時は医療機関からの情報提供を书面で受け治療内容や状態の変化について共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合のホームで出来る事を説明している。県立病院の訪問診療縮小化によりの終末期の対応は現在困難であるため、どういった状態になったら退所となるのかを説明している。	事業所での生活を可能な限り支援するものの、看取りはできないことを家族に伝えている。体調の変化があった時には、家族に報告して受診をしており、家族とはその度話し合っている。当事業所での対応が困難な場合には、行政や病院に相談し、特養や老健の紹介を得て対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、事故発生時のマニュアルを作成している。内部研修にて全職員がマニュアルを把握し、初期対応訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年2回の訓練を実施している。水害についてはマニュアル見直しを行い、避難準備情報が発令された場合避難することをマニュアルで定め、実際に避難している。年1回水害想定避難訓練を実施している。	年2回火災を想定した訓練を実施している。12月には夜間の災害発生を想定した訓練を計画しているが、車いす利用者が5人いることから、消防署にも相談して万全の注意を払うこととしている。9月には台風のため実際に小学校への避難を経験したが、無事に行うことができた。備蓄は確保できている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、不快にならない言葉かけに努めている。間違いを否定するのではなく受け止め共感する対応に努めている。	職員が入居者に向けて発している言葉の内容や語調等が、利用者の誇りを傷つけないために、否定的な言葉を使わずに「〇〇しましょう」と出来る事での活動を促したり、意図的に地元の言葉を使ったり馴染み感を出し声掛けしている。特技を生かした活動を支援している。	

令和 3 年度

事業所名 : ホームとよまね

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	過ごしたい場所、食べたい物、したい事をその都度選択できるような声掛けに努め、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間以外の日課は最小限にし、その日その時間をどう過ごすか利用者が選択している。散歩や買い物勤務体制で可能な限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は職員と一緒に服を選んだり、近所の呉服店にでかけおしゃれを楽しんでいる。毎月出張カットがありホーム内で散髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握し提供している。季節がわかる旬の食材を使ったり、好みの調理法の相談をしたり、盛付を手伝ってもらったり食事を楽しむことができるよう努めている。	食材は、近くのスーパーでの購入や生協の宅配などを利用している。入居者が毎回3名位、もやしの根取りなどの下ごしらえやヨーグルトなどの盛り付けを行っている。誕生会では、社長がスポンジケーキを焼き職員がデコレーションして皆で食べており、行事や外出した時には、近所の店から弁当やラーメンを取り寄せ、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分摂取量を記録し、必要量を摂取できているか確認している。嚥下状態に合わせ刻みやミキサー食などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所へ誘導し歯磨きを行っている。夕食後は義歯を預り毎晩洗浄剤につけ衛生を保つようにしている。介助が必要な方はスポンジブラシなどを使用し口腔衛生に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をもとにパターンを把握し、誘導の必要な利用者の誘導時間の目安として失禁回数の減少に努めている。	習慣やパターン、タイミングに応じた排泄支援に努めている。便秘対策として、毎朝牛乳を飲むことやヨーグルトなど摂ったり、下剤を調整し服用したりしている。入居者のトイレ誘導では、もしかすればとタイミングを見て声掛けし、失敗しないで排泄できたときは喜びとなっている。	

令和 3 年度

事業所名 : ホームとよまね

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日朝食に牛乳を提供している。水分摂取量も参考にし少ない場合は多めに摂取する様促している。主治医の指示により下剤の量を調整し排便コントロールしている利用者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴予定表のとおりとしている。希望がないため午前入浴となっているが、時間や曜日を臨機応変に変更することも可能としている。	入浴は、月曜日から土曜日で週2回としている。着替えは、職員と一緒に準備し、ラジオ体操や水分補給後に入浴している。季節感を味わうため、菖蒲湯や柚子湯、入浴剤を使用し楽しんでいる。入浴での羞恥心や恐怖心がある場合には、その心情を察した対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝の時間は決めておらず、それぞれのペースに合わせている。食事時間もその日の状態により変更している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の処方内容を入れている。処方に変更があった場合は日誌に記入し職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での家事を中心に職員の業務を手伝うという感覚ではなく、自らの役割や生きがいとして自主的に出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩などが日課となっている利用者には本人のペースで行えるよう支援している。季節ごとのドライブの企画の他、自宅や親戚の家に行くなど個別に対応している。	コロナ禍の以前より外に出掛ける機会が少なくなっているが、ドライブしたり、短時間でも戸外に出る機会を作り支援している。暖かい時には、事業所の近くを散歩している。ドライブでは感染状況に注意し、人混みを避けながら、季節ごとに田野畑の道の駅や浄土ヶ浜公園などに出掛けている。思い出のある自宅にも出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ管理の仕方を本人、家族と相談して決めている。現在、買い物時はコロナ感染予防のため休止している。		

令和 3 年度

事業所名 : ホームとよまね

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、その都度対応している。手紙のやりとりをしている利用者には書き方の支援や投函を職員で行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りを壁に貼っている。天候や気温により照明や冷暖房の使用を工夫している。居室の場所により、日中の光が差す時間帯が異なり寒暖の差がでることがあり、各居室に温湿度計を設置し確認している。	日中に過ごすことの多いリビングは天井が高く明るく、温度や湿度にも配慮され快適な空間が保たれている。壁には手作りの干支の丑が、カウンターにはシクラメンが飾られ、来訪した小学生からのメッセージなども掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやホール、居室と本人が希望する所で過ごしている。食事の席は気の合う利用者同士を近くに配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた仏壇を置いたり、家族写真やタンスなど馴染みの家具を置いて自分の部屋と認識できる環境作りに努めている。	居室には、ベッド、クローゼット、温湿度計が備え付けられている。入居者は、仏壇や筆筒など自宅で使っていた馴染みの家具を置いている。壁面には、ボードを設置し入居者の暮らしが見えるよう、家族写真や誕生日カード、作品などを貼っており、自分の部屋と分かる居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からホール、居室まで段差がなく、廊下には手すりを設置している。移動導線上は歩行に障害とならないように配慮し、安全に自立生活が送れるよう努めている。		